

平成28年9月14日
愛媛大学

素敵な年のとり方をご提案します

大学病院で受ける最先端の抗加齢ドック

愛媛大学医学部附属病院は、動脈硬化に特化した人間ドックを行う「抗加齢・予防医療センター」を設置しています。

当センターでは、体の中で一番太い血管から頭の中にある最も細い血管まで、動脈の状態をあらゆる角度からくまなく検査し、世界で最新の検査方法を使った認知症の検査や、約60項目以上の血液・尿検査をはじめとする多くの臨床検査から、その人に合ったオーダーメイドな予防方法を医学部の高度先端医療に携わる医師が提案しています。

また、皮膚の側面からアンチエイジングをサポートし、より健やかに年齢を重ねるお手伝いをする『抗加齢皮膚ドック』や、食べる・話す・笑うといった機能を維持し、より活動的に年齢を重ねていくお手伝いをする『抗加齢口腔ドック』も行っています。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

◆ドックコース : ①抗加齢ドック ②抗加齢皮膚ドック ③抗加齢口腔ドック

◆申込み方法 : 愛媛大学医学部附属病院抗加齢・予防医療センター

電話 089-960-5932 (平日 9:00~16:00)

※抗加齢ドックは完全予約制です。

【参考】

日本人の死因はガンが最も多く、次いで脳血管障害(脳卒中)と心臓病です。脳卒中と心臓病を合わせて循環器疾患といい、その割合はガンと同程度となります。また、寝たきりの高齢者の3~5割は脳卒中が原因と言われており、認知症(痴呆)も、日本人の約4割は脳血管の障害によるものです。

健康な人生を送る上では、脳卒中と心臓病の予防が大変重要になり、これらの病気に共通する原因が動脈硬化なのです。

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学医学部附属病院

抗加齢・予防医療センター長 伊賀瀬 道也

電話:089-960-5851

※送付資料2枚(本紙を含む)

⊕抗加齢ドックとは？

抗加齢ドックは動脈硬化と動脈硬化性疾患（脳卒中や心臓病）に特化した人間ドックです。

認知機能検査
認知症（軽度認知障害）の有無をチェック

血管や血液検査など約 60 項目以上

ドックの個人結果をもとに、健康につながる
コツをオーダーメイドにご提案

脳卒中や心臓病の予防と健康長寿の実現を目指した「抗加齢ドック」
（抗加齢ドック、皮膚ドック、口腔ドック）、日頃、高度先進医療に携わる大学病院の医師・検査技師によるドックです。

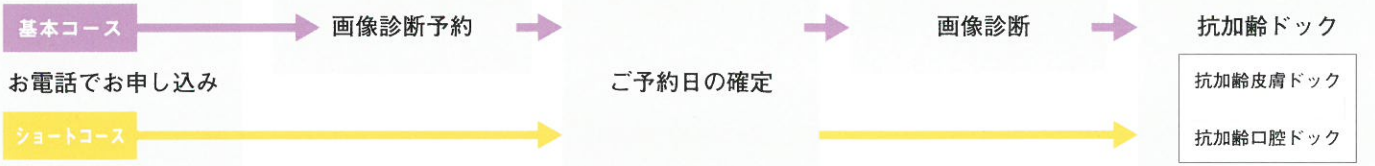
⊕抗加齢ドックの主な検査

最先端機器を使用した

- 身体組成 身長・体重・ウエスト、内臓脂肪
- 血液検査・尿検査
- 血圧 随時血圧、24 時間自由行動下血圧*
- 心電図、脈波伝播速度、骨密度
重心動揺検査、呼吸機能、認知機能
睡眠時無呼吸検査*、活動量計*

*印は無料オプション検査

⊕お申し込みと検査の流れ



下記お電話番号までお問い合わせください。各ドックの説明のあと、ご予約を承ります。

頭部・腹部の画像診断は提携病院（和昌会 貞本病院 松山市竹原町）で受けていただきます。診断（検査）日は、毎週火・水曜日になります。また、基本コースを受けられる方は、画像診断から 1 週間以上後のご予約になります。

貞本病院までお越しください。検査は 30 分程度で終了します。お支払いは附属病院でまとめて頂戴します。

ご予約当日 9:30 までに附属病院 3 号館 1 階の抗加齢・予防医療センターまでお越しください。

大学病院で受ける最先端の「人間ドック」

レディースコース

マンモグラフィと経膈エコーによって、乳房や卵巣・子宮病変など女性に特有の疾患をスクリーニングします。

眼科コース

生活習慣病と密接に関係し、視力低下や失明の原因となりうる緑内障・糖尿病網膜症・加齢黄斑変性などについて負担なく高精度にチェックします。

PET コース

細胞の活動状態を見る PET と、腫瘍の形や大きさを見る CT を組み合わせることで、より高い精度で全身のがんをスクリーニングできます。

受診日

	抗加齢ドック	皮膚ドック
月		
火	○	○
水	○	
木		
金		

口腔ドック	人間ドック	レディースコース	眼科コース	PET コース
		○	○	○
○	○			○
	○	○	○	○

*土曜・日曜日と祝日は休診です。



愛媛大学医学部附属病院 抗加齢・予防医療センター

お電話でのご予約・お問い合わせ
（平日午前 9 時から午後 4 時まで）

TEL.089-960-5932

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 FAX.089-960-5916 <http://www.m.ehime-u.ac.jp/hsp/aagc/>

⊕ Center for Anti-aging

愛媛大学医学部附属病院 抗加齢・予防医療センター

Center for Anti-aging and Preventive Medicine

WELCOME ⊕

いつまでもふたり若々しく健康でいたいから
「抗加齢ドック」受けました。



「血管年齢」を
若く保って
元気で健康な
長寿を目指そう

DOCTER'S VOICE **01**

筋肉の減少は
運動機能の
低下だけでなく、
糖尿病の
リスクも

見た目が若いと
「血管年齢」も若い
外見と内面の
両方の老化を
防ごう

DOCTER'S VOICE **03**

アンチエイジングは
究極の予防医学
病気になる前に、
そのリスクの芽を
摘む

DOCTER'S VOICE **02**

愛媛大学医学部附属病院 抗加齢・予防医療センターによるこそ

愛媛大学医学部附属病院抗加齢・予防医療センターは2006年2月に設立され、最先端の抗加齢(アンチエイジング)ドックを提供する医療・研究機関です。ドックでは脳、心臓、血管、血液、皮膚、骨密度など60項目にわたる検査を実施し、将来的に病気の発症が懸念される芽を摘む「予防医学」に力点を置いています。2013年10月末までに2,400人余りの方が受診し、その検査データに基づいた研究を進め、アンチエイジング医療の発展に寄与する論文も多数発表しています。



抗加齢ドック さまざまな生活習慣病の原因となる動脈硬化に特化した人間ドック。血管系の特殊検査や認知テストなどを行うことで血管年齢・脳年齢を評価し、個人のデータに基づいたオーダーメイド医療を提供している。対象は主に40~70歳。基本コースは、動脈硬化度・骨密度・ホルモンバランス・認知機能・脳ドック・内臓脂肪検査などを実施。基本コースから脳ドックと内臓脂肪検査を除いたショートコースもある。希望者には有料オプションで皮膚、口腔の各ドックも追加受診できる。

アンチエイジング医学 元気で長寿を享受することを旨とする理論的・実践的医学。実年齢を重ねるとともに起きてくる「老化」は個人差が大きい。そのため老化の原因となる食生活、運動習慣などライフスタイルの改善に加え、内科的、外科的アプローチで老化を改善する「予防医療」に力点を置いている。

「血管年齢」を若く保って 元気で健康な長寿を目指そう

「アンチエイジング」という言葉を聞くと、美容や外見の若さをイメージする方が多いと思われがちですが、抗加齢・予防医療センターが取り組むのは、体の内面の老化を防ぎ、元気で長寿を目指す医学のことです。

「ヒトは血管とともに老いる」という1600年代からの医学の格言が意味するように、血管の老化が進むと動脈硬化の危険性が高まり、放置すると脳・心臓・腎臓といった臓器が徐々に侵され、重篤な病気へとつながっていきます。

抗加齢ドックでは、コンピューター断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)、脈波伝播速度測定器など最新の機器を使い、全身の大きな血管から脳の毛細血管まで詳細に検査します。

血管を老化させる三大要因として▽糖尿病▽高血圧▽コレステロール



があります。暴飲暴食や運動不足、持病など、さまざまな要因で血管年齢は実年齢よ

り「老けて」いきます。これまでの受診データを解析した結果、5%強が脳内の微細な血管が切れる「かくれ脳出血」を起こしていました。また約10%に「かくれ脳梗塞」がありました。本人にはまったく自覚症状はありませんが、この状態を放置すると将来は脳出血や脳梗塞につながりやすくなります。

40歳を過ぎれば血管年齢の個人差が出始めます。早めにご自身の血管年齢を知ることをお勧めします。

筋肉の減少は運動機能の低下だけでなく、糖尿病のリスクも

最近、アンチエイジング医学の中で「サルコペニア」がキーワードとなっています。ギリシャ語で「サルコ」は「肉」、「ペニア」は「失う」を表す言葉です。年齢を重ねると筋肉は減ってきますが、実年齢以上に筋肉の減少が進むと身体機能は一気に低下します。

また、筋肉は血糖値の調節を行う代表的な場所です。筋肉量が減ると糖分が使われにくくなり、血糖値が上昇し、糖尿病を発症・悪化させて動脈硬化が進む危険性が高くなります。

そこで抗加齢・予防医療センターでは、受診者に対する説明の際に、個人個人の身体計測のデータをもとにサルコペニアの予防の重要性を啓蒙しています。将来的に体のバラ

ンス低下による転倒・骨折のリスクを回避し、高齢者の「要介護状態」「健康寿命の短縮」などのリスクの芽を摘むことが大切です。

抗加齢ドックをさらに充実させるため▽抗加齢皮膚ドック▽口腔ドックのオプションを追加しました。認知症や身近な健康問題について相談を受ける「アンチエイジング相談外来」も開設しました。ぜひ一度ご自身の「身体年齢」をチェックしてみてください。



愛媛大学医学部附属病院 抗加齢・予防医療センター長 **伊賀瀬 道也** 医師 (いがせ・みちや) 1991年 愛媛大学医学部卒、2005年 愛媛大学大学院医学系研究科老年・神経・総合診療内科学講師、11年からセンター長兼任

アンチエイジングは究極の予防医学 病気になる前に、そのリスクの芽を摘む

急速な高齢化社会に対応するため1997年4月、愛媛大学医学部に老年医学講座が開設され、初代教授として赴任してきました。99年には愛媛大学医学部附属病院に高齢者の患者を総合的に診察する「老年科」を新設。2000年にスタートした介護保険制度の医療分野の中心的な担い手を務めています。

抗加齢・予防医療センターの開設は、いわゆる「団塊の世代」がリタイアして高齢になっていく中、加齢に伴う病気の発症を予防する観点からスタートしました。具体的には、要介護者の原因疾患である脳血管疾患、認知症、転倒・骨折、関節疾患などの発症

予防を行うことです。

今後、超高齢社会を迎える日本では、寝たきり患者を少しでも減らすことが、高騰する各種医療費に歯止めを掛けることにつながると考えられます。

センターでは、抗加齢ドックで得られた受診データを基に「寝たきり予防」「片足立ち時間の低下と認知機能低下との関連」「軽度認知障害と皮下脂肪の関連」など、これまで20本を超える英文研究論文を発表しました。これからは「究極の予防医学」として、アンチエイジング医療に取り組んでいきたいと考えています。

日本老年医学会 成人病、老年病関係の医療・研究従事者、専門家等組織する国内でも有数の学会。1959年に発足し、現在会員数6200人。年1回学術集会を開催し、心疾患・脳血管病変の基礎にある血管病変▽脂質代謝▽糖尿病▽認知症▽神経疾患等に関する専門研究者の研究発表を報告・発表している。また介護保険が2000年4月から開始されたことも視野に入れ、福祉と医療の連携を図っている。

見た目が若いと「血管年齢」も若い 外見と内面の両方の老化を防ごう

「見た目が若いと血管年齢も若く、健康で長生きする可能性が高い」—愛媛大学大学院医学系研究科老年・神経・総合診療内科学の小原克彦特任教授らが研究結果をまとめ、2012年に日本老年医学会の英文誌に論文を発表しました。

調査は、抗加齢・予防医療センターの抗加齢皮膚ドックを受診した男性86人、女性187人の計273人(平均67.1歳)を対象に実施。特殊な機器で顔写真を撮影し、看護師20人による印象調査と、画像的に年齢を推定するコンピュータープログラムの両面で「見た目年齢」を判定し、実年齢と比べて若

く見えるか、歳をとって見えるかの差を数値化しました。受診者の「血管年齢」を頸動脈エコー診断で調べ、両数値をグラフ化した結果、若く見える人は血管年齢も若く、歳をとって見える人は血管年齢が高くなる傾向にありました。

2009年にオランダで「双子の寿命の差は見た目年齢と関連がある」という研究論文が発表され、医学界で注目を集めています。血管年齢の老化を防ぐには禁煙や適度な運動、血圧をコントロールして肥満予防に努めることが効果的です。見た目を若く保つことが健康長寿につながるというわけです。

抗加齢皮膚ドック 2008年4月から抗加齢ドックのオプション検査として実施。皮膚は紫外線が主な原因で「光老化」と呼ばれる特殊な老化を起こし、シミやシワ、皮膚がんの発生につながる。皮膚科専門医が皮膚がんや全身疾患に伴う隠れた皮膚のサインを視診。「ロボスキンアナライザー」という機器でシミやシワを解析して肌年齢を評価し、角質の水分量や血流などを測定する。希望者には「見た目年齢」も診断している。



愛媛大学大学院医学系研究科 老年・神経・総合診療内科学教授 初代センター長 **三木 哲郎** 医師 (みき・てつろう)

1975年 大阪大学医学部卒、95年 大阪大学医学部助教授、97年 愛媛大学医学部教授、2006年 抗加齢・予防医療センター長。日本老年医学会理事



愛媛大学大学院医学系研究科 老年・神経・総合診療内科学特任教授 2代目センター長

小原 克彦 医師 (こはら・かつひこ) 1982年 大阪大学医学部卒、97年 愛媛大学医学部准教授、2009~11年 抗加齢・予防医療センター長